

別紙

温室効果ガス排出削減計画

| | | | | | |
|------------|---|--------|-----------|---|--|
| 氏名 | (法人にあっては名称) 株式会社 大阪ソーダ | | 住所 | (法人にあっては主たる事業所の所在地) 〒 550-0011 大阪府大阪市西区阿波座1-12-18 | |
| 本票作成 | 部署名： 施設課 | | | | |
| 主たる業種 | 分類コード | 16 | 業種名： 化学工業 | | |
| 事業の概要 | 化学工業製品（アリルクロライド、エピクロロヒドリン、エピクロロヒドリンゴム等）の製造 | | | | |
| 県内の主な工場等 | 番号 | 工場等の名称 | | 所在地 | |
| | ① | 水島工場 | | 岡山県倉敷市児島塩生字新浜2767-13 | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 特定事業者の該当要件 | <input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 1 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台) | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------------|---|---|----------------|---------------------------|-------|--------|--------|-------|------|
| 計画期間 | 令和 2 年度 ~ 令和 6 年度 (5 箇年度) | | | | | | | | |
| 削減目標 | いずれかを選択 | <input type="checkbox"/> 総排出量基準 | 目標削減率 5.0 % | 目標区分 | 20%以上 | 20~15% | 15~10% | 10~5% | 5%未満 |
| | | <input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準 | | | | | | ○ | |
| 温室効果ガス排出量 | 基準年度 (令和 元 年度) | | | 目標年度 (令和 6 年度) | | | | | |
| | 135,589 t CO ₂ | | | 149,085 t CO ₂ | | | | | |
| 基準年度の主な工場等の排出量 | 番号 | 工場等の名称 | | 基準年度 (令和 元 年度) の排出量 | | | | | |
| | ① | 水島工場 | | 135,589 t CO ₂ | | | | | |
| | | | | t CO ₂ | | | | | |
| | | | | t CO ₂ | | | | | |
| | | | | t CO ₂ | | | | | |

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

| | | | |
|------------------------|--|------------------------------------|------------------------------------|
| (原単位基準の削減目標を選択した場合に記入) | 温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 製品生産量を代表製品（エピクロロヒドリン）に換算した生産量。 CO ₂ 排出量は、製品製造時の使用エネルギー及び副生物の燃焼及びRPF燃料燃焼によります。 | 原単位当たり排出量 | |
| | | 基準年度 | 目標年度 |
| | | 1.810 t CO ₂ / (t) | 1.719 t CO ₂ / (t) |

(該当事業者のみ記入)

| | | | | |
|-------------|---------|----------|----------------|---------|
| ベンチマーク指標の状況 | 対象事業の名称 | ベンチマーク指標 | 関連数値 (令和 元 年度) | 達成率 (%) |
| | | | | |

【目標削減率設定の基本的な考え方】

排出するCO₂の由来のほとんどが、製品製造時の使用エネルギー及び製品製造時の副生物の燃焼によるため、省エネ法に基づくエネルギー削減目標の1%/年と同じ設定としています。
 基準年度である令和元年度の前単位当たりのCO₂排出量1.810tCO₂/tから、1%/年削減し、5年後の令和6年度の前単位当たりのCO₂排出量を、1.719tCO₂/tになるように、温室効果ガスの排出量の削減に取り組みます。
 なお、生産量の増加を見込んでいたため、温室効果ガスの排出総量自体は、増加するものと考えています。

【目標削減率達成のための推進体制】

事業所長の下に省エネ委員会を設置し、エネルギー管理士を中心に省エネ活動を推進しています。月1回開催されるRC委員会にて、省エネ活動の啓蒙を行っています。2000年10月に、ISO14001認証取得し、省エネ（CO2削減）に継続的に取り組んでいます。

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

| 工場等の名称 | 取組内容 |
|--------|--|
| 水島工場 | <ul style="list-style-type: none"> ・保温、保冷の強化（平成22年度～平成23年度） ・蒸留で生じる蒸気ドレンの有効活用（平成23年度） ・ボイラーの缶水ブロー量の適正化（平成24年度） ・高効率で省エネ型の精留塔設置し蒸気量を削減する。（平成25年度） ・排水処理への新技術導入（平成26年度） ・曝気槽エアレーション方式変更による電気使用量削減（平成29年度） ・照明のLED化による電気使用量削減（平成29年度～継続） ・乾燥設備剥離剤吹付適正化により蒸気量削減（平成29年度～継続） ・乾燥設備蒸気ドレン回収による蒸気量削減（平成30年度） |

【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】

| 工場等の名称 | 措置内容 |
|--------|---|
| 水島工場 | <p><継続></p> <ul style="list-style-type: none"> ・変圧器や電動機購入時には、高効率機器を採用する。 ・曝気槽のエアレーション方式を見直し、ルーツブロワの稼働台数を最適化することにより、電気使用量の削減を図る。 ・エピクロロヒドリンゴム製造工程において、使用している蒸気使用量の削減を図る。 ・水銀灯をLED化することにより電気使用量を削減する。 <p><新規></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エピクロロヒドリンゴム製造工程において、分散された冷凍機負荷を見直すことにより電気使用量を削減する。 ・精留塔還流量を見直しリボイラー蒸気使用量を削減する。（CO2削減629t/年） ・大型冷凍機の余力により小型冷凍機の負荷を下げ電気使用量を削減する。 |

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

| | | |
|--------|---|--|
| 県内での取組 | 無 | |
| その他 | 無 | |

【再生可能エネルギーの導入計画】

| | | |
|--------|---|--|
| 県内での取組 | 無 | |
| その他 | 無 | |

【その他特記事項】

・当社では、省エネタイヤ用シランカップリング剤「CABRUS」を製造販売しています（他工場にて製造）。

・ダップ樹脂の戦略性、独創性、市場占有性が評価され、2014年に、経済産業省「グローバルニッチトップ（GNT）企業100選」に選ばれました（他工場にて製造）。